

持続可能な航空燃料 (SAF)

政府は 2030 年には国内の航空会社が使用する燃料の 1 割を持続可能な航空燃料 (SAF) にする目標を掲げています。今般、廃食用油を利用する SAF の大規模な製造設備が大阪府堺市に完成し、日本国内では初となる「国産 SAF サプライチェーン」が構築されました。国内航空会社への供給は 2025 年度から予定されています。

そんな中、IFALPA より SAF に関する見解文書が発行されましたので一部をご紹介します。



SAFETY BULLETIN

25POS05
7 January 2025

Sustainable Aviation Fuels (SAF)

持続可能な航空燃料 (SAF) とは？

持続可能な航空燃料 (Sustainable Aviation Fuels = SAF) は再生可能な原料や非化石燃料を元にした航空機用燃料のことをいいます。従来のジェット燃料に代わる、環境に優しい選択肢として注目されており、バイオマスや電気エネルギーを利用した合成燃料など、さまざまな方法で作られます。

SAF の導入は航空業界の将来の脱炭素化に重要な役割を果たすことになり、新しいエンジンや航空機技術、より効率的な飛行手順や ATM (航空交通管理) の改善とともに進められるでしょう。



SAFを使用して運航した場合、飛行機雲の形成が大幅に抑制され、副次的にも温暖化防止に役立つと言われています！

安全性と運用上の観点

従来の航空燃料は、石油精製所で生産、物流会社によって流通され、運搬や保管中に製品が規格内に保たれるよう、定められた手順に従って取り扱われています。一方、SAFの生産は供給源が異なること、小規模な工場で行われることが一般的なため、品質管理とトレーサビリティについて厳格な品質基準を確実に満たしているか監視する必要があります。

※生産および使用に関する基準は一般的に ATSM D1655 のジェット燃料基準によって、また品質管理は航空燃料の制御、流通、トレーサビリティに関する要件 (EI/JIG1530 および 1533) に基づいています。

IFALPAの立場

IFALPA は、航空業界の環境への影響を最小限に抑える業界の取り組みに引き続き貢献すべき、と考えている一方で、技術、運用面での実現可能性、公正な経済原則、環境的利益をバランスよく考慮し、安全性が損なわれないことを保証する必要があると考えています。

また、SAFのトレーサビリティ（注）を改善し、関連する運用上の問題が起きないように対策を取ることが必要不可欠であり、品質・安全管理について SAF 燃料供給網の透明性を求めています。

（注）製品の生産から消費までの流通過程を追跡すること、日本語では「追跡可能性」と訳されます。

さいごに

現時点で、SAFの生産量は世界の航空会社が使用する1日の燃料も満たすことができていません。一方で、SAFは今後の需要や気候目標を満たすために、大幅に拡大することが予測されています。今後、ICAOおよび加盟国が、SAFの大規模生産と運用をサポートする重要な役割を果たしていくべきですが、長期的な支援政策により航空市場が歪められることのない様、引き続き注視していきます。

以上

*原文は ALPA Japan HP に掲載の [25POS05](#) を参照してください